

満1歳お誕生日おめでとう



HAPPY BIRTHDAY

4月生まれ

いぬい ひろむ
乾 大夢 ちゃん(引谷)

4月23日生まれ

お父さん 真 人さん

お母さん 美由紀さん

- 好きな食べ物
アイスクリーム
- 今、興味のあるもの
ハイハイすること、リモコン、
デッキのダイヤル、電話
- ご両親からのメッセージ
いつもかわいい笑顔をありが
とう♥パパの夢を追いかけて
くれるのかな?◎

あわくら
歴史街道 雛祭りの今昔

私達生活の中で、春のお祭り行事に五節句の一つである雛祭りがあります。3月3日または4月3日に行う家庭もありますが、初子、女兒が生まれた家では、子供の健やかな成長を祈ると共に、頭が良くなるようにとの願いもこめてのお祭りです。

お雛様は母方の里から祝ってくるのが習わしとなっていて、それに親類、親交の方達からも雛が贈られていました。雛壇に飾られた内裏様をはじめ、天神様、人形その他種々なお雛様、最下段には菅原道真公の詠句に因んだ梅（または桃）の花、この地方では木伏ハンの木等も立て、その枝に雛菓子（モナカの皮状のもの）を飾りつけていました。県南の地方では柳の枝を立てる家が多いようです。お供物には甘酒、白酒、菱餅、押枝ずし、いなり、巻ずし、よもぎ餅、芹の和物、あられ（大豆、もち米、きび、餅を小さく四角に切ったものに砂糖を少々加えて煎ったもの）等が供えられ、雛壇の周囲には沢山の雛掛軸が所狭しと飾られて室内も一変、華麗で身も心も癒してくれたものでした。当日は嫁の実家や親類を呼んで会食したり、お雛様を見にくる子供達にお供物を振舞う習慣があって、この事を「ひな荒し」、「ひな荒れ」などとも云っていました。県南地方、佐用郡内の史誌を見ても大体同様の行事となっています。

雛祭りにまつわる歴史は古く、平安時代に始まる「ひいな祭り、ひとがた、お祓行事」など、室町時代には紙の立雛、安土桃山時代（1574）には伏見人形、江戸時代寛永の頃（1624）には3月の節句が行事化され、宝暦の頃（1751）2～3段の雛飾り、安永年間（1772）には5～6段、天明（1781）の頃五人囃子や雛の掛軸が、江戸後期には豪華な7～8段の雛飾のお目見え、いよいよ農村にまで普及したのは明治以降で、土雛、押絵雛、掛軸等も庶民の雛として普及し飾られるようになったと伝えられています。※五節句とは「1月7日・七種節句（七草粥）」、「3月3日・上巳の節句（桃）」、「5月5日・端午の節句」、「7月7日・七夕の節句」、「9月9日重陽の節句（菊）」を言います。



▲ギブシ

人の動き 平成19年3月1日現在

- 人口 1,671人(-1)
- 2月中の移動
- 男 788人(-2) 出生 1人 死亡 4人
- 女 883人(+1) 転入 7人 転出 5人
- 世帯数 545戸(-2)

お悔やみ申し上げます

江見富美代 さん(影石) 3月6日 89歳
道上 朝治 さん(別府) 3月16日 81歳

善意の窓 (村社会福祉協議会から)
平成19年2月20日～19年3月19日)

おめでとうございます

下土居 春名 静男 様 長女美里様 結婚内祝
坂根 宮本 節子 様 長女 恵 様 結婚内祝

お大事にしてください

知 社 清水 巖 様 本人 退院内祝
大 茅 岡田 和子 様 本人 退院内祝
影 石 関 武己 様 本人 退院内祝

ご冥福をお祈りします

知 社 小松 重雄 様 亡妻 美代様 香典返し
下土居 山下 英輔 様 亡父 健一様 香典返し